

## ST専攻科の国試合否と基礎学力、 学業成績、実習成績の関係および そこから得られた課題

阿志賀大和（保健言語聴覚学専攻）

国試合格を左右するうえで学業成績、実習成績、基礎学力は重要な要素であり、国試の結果を予測する重要な手がかりである。本学のST養成課程を修了した学生のST国試成績と基礎学力、学業成績、実習成績のそれぞれの成績間について、2009～2013年度の本専攻科入学生25名のうち、転科を行った者、中途退学者を除外し、2014年3月までに国試を受験し自己採点結果を提出した18名の成績を対象に検討を行った。その結果、国試成績と基礎学力の間で最も強い相関を認めた。先行研究においても、国試の得点と入学時基礎学力の得点の間に相関を認めたと報告されており、本研究はそれを支持する結果となった。学習効果を十分に測定できる方法や知識の定着を図る取り組みを実践していくことが必要であると考えられた。そのためには、先行研究でも述べられているように、各学生にとって好ましい条件を整えていくよう教員側で働きかけていくことは重要であると考えられた。特に、本研究の結果から、基礎学力の低い学生に対しては、生活指導も含め学生に合った個別指導を早期から行うことが重要であると考えられた。

第71回（通算第154回）：平成26年9月25日（木）

（座長：丸山 満）

## 歯科衛生士学科学生の 食生活状況から考える 栄養指導教育〈2〉

平澤明美（歯科衛生士学科）

平成23年「健康日本21」最終報告では、朝食を欠食する人の減少が上げられたが、特に20歳代女性は年々上昇傾向あり、現状でも20%を超え目標値をかなり上回り、評価D（悪化している）とされた。しかし、H12～21とH25の本学歯科衛生士学科学生調査の朝食欠食状況は、全国の同年代女性より良い傾向にあった。H25の調査で特に、2・3年の「栄養指導」関連の授業が終了した学生で、栄養や健康についての知識があっても、「臨地・臨床実習」や「国

家試験対策」の影響があり、朝食欠食の実践に結びついていない状況が示唆された。従って、授業の中で健康・栄養状態の改善について、実生活で実践し、継続を可能にする取り組みが必要であり、（1）2学年後期の「栄養指導」において、「健康と食事」をテーマに取り上げたグループ学習など（2）「主食・主菜・副菜」を組み合わせた食事の現状把握など（3）簡単な朝食メニューの紹介や学生食堂との協力などを今後検討したい。

## 歯科技工装置説明書の発行に関する 取り組み

榎並拓也（附属歯科診療所歯科技工室）

高橋巧実（附属歯科診療所歯科技工室）

本学附属歯科診療所が技工装置説明書の導入に至った理由は、薬剤師が発行している「お薬手帳」のように、患者に対し歯科技工装置を分かりやすく説明する媒体があれば、当診療所の歯科医療サービスの質的向上に繋がるのではないかと発想からだった。幾度にわたる技工カンファレンスで検討を重ね、導入に向けた様式を作成した。

現在、診療室で使っている補綴物維持管理・義歯管理の情報提供文書に比べ、担当歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士の記名および歯科技工装置の特徴や使用材料についてわかりやすいように工夫した。

当診療所の担当歯科医師から「写真と説明がついて分かりやすくなっている」、「患者に喜んでもらった」等、一定の評価を得ることができた。

一方、「字が小さくて見づらい」「内製と外注の両方に発行してほしい」「納品時に説明書が濡れて字が滲んでいる」等、書式、発行範囲、添付方法について検討課題が出され、今後さらに当診療所全体で改良していくこととなった。

第72回（通算第155回）：平成26年10月23日（木）

（座長：山田隆文）

## メタルフリー審美的クラウンの紹介

井上 篤（沖歯科工業株式会社）

近年では、金属の価格高騰や今後の安定供給の不安から金属に代わる材料の開発が進められている。

また、白い歯で治療して欲しいといった審美的な関心や金属アレルギー対策などから金属を用いない補綴物の普及が進んでいる。

弊社では、8年前にCAD/CAMシステムを導入し、メタルフリークラウンの製作を開始、以後も新素材にチャレンジし製作、提供を行なっている。現在取り扱っているのはCAD/CAMを利用したもの（ジルコニアクラウン、Z冠、CAD/CAM冠）、加熱・加圧成型で製作するもの（e.max）がある。

どちらもジルコニアを素材とするが、色調の再現性に優れるジルコニアクラウンと、支台歯形成量が少なくても強度がとれるZ冠の特長や適応症について、また平成26年4月に保険適用されたCAD/CAM冠では工場での高度な管理下で製造されたハイブリッドセラミックスブロックが安定した物性を実現していること、さらに二ケイ酸リチウムガラスセラミックスを素材とするe.maxは審美的に優れていることなど製作工程を交えながら紹介した。

高校時の成績と本学での成績を比較すると、高校時の成績Aの学生は本学での成績も高く、高校時の成績が下がるに従って、本学での成績も低くなる傾向を示した。また、高校時の成績が低いDの学生ほど退学する傾向が見られた。

## 歯科技工士学科生の退学の実態について

相馬泰栄（歯科技工士学科）

今年度、読売新聞が国公立大学744校を対象に「大学の實力・教育力向上の取り組み」についての調査を行い、その結果が掲載された。その中で、入試方法別の退学率が初めて明らかになり、AO入試者の6人に1人（15.5%）が退学していることが明らかになった。本学も平成15年度生からAO入試が実施され、現在に至っている。そこで本学科生の退学の実態を調査した。

対象者は平成18年から24年までの入学生320名の高校時の資料及び本学科の卒業資料を基に行った。本学科の内訳は、男子は172名（53.8%）、女子は148名（46.3%）。入試方法別の入学者ではAO入学は153名（47.8%）、指定校制推薦入学が115名（35.9%）、一般入試・公募制推薦・社会人特別選抜・専門学科入学者は10%未満であった。

入学生の高校時の成績では成績Aは女性が多く、成績Cは男性に多く見られた。

退学者数は25名（7.8%）で、入試方法別の退学者ではAO入学が14名（9.2%）で最も多く、指定校制推薦入学が6名（5.2%）あったが男女別の退学率に差は見られなかった。